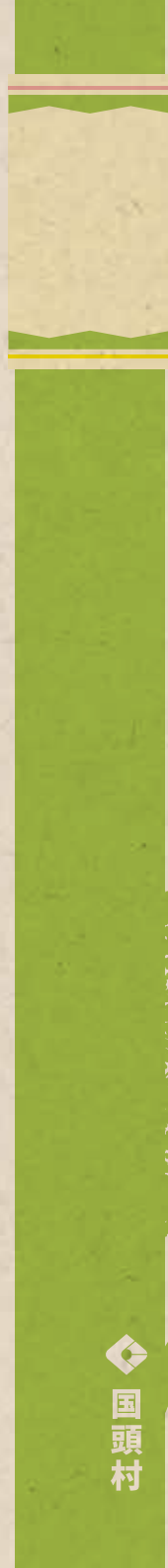




KUNIGAMI



国頭村



国頭村の
歌碑めぐり



KUNIGAMI

今こそ、 地元の魅力再発見!

「やんばるの森」の世界自然遺産登録を目指す国頭村の奥深さは、文化・歴史にも象徴されます。今回は、5年前に地元の小学生が夏休みの自由研究でまとめてくれた調べをもとに、村内全域にある歌碑を紹介します。

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界遺産委員会の開催が延期されていますが、今こそ、国頭村の歴史巡りをしませんか？

※写真のほとんどは当時のものです。今との違いもお楽しみ下さい。



もくじ

■ 国頭村の歌碑案内図 P.2	■ 与那節・与那節 P.11
■ 恋し鏡地 P.3	■ 謝敷節 P.12
■ こいし国頭 P.4	■ 豆知識コーナー 4 P.13
■ 国頭さばくいの地 P.5	● 与那の高ひら	
■ 豆知識コーナー1 P.6	● 謝敷節	
● 「恋し国頭」の碑		■ 辺野喜節 P.14
● 「国頭さばくい」		■ 當山正堅先生の琉歌碑 P.15
■ 豆知識コーナー2 P.7	■ 安波節 P.16
● 国頭さばくいと首里城		■ 豆知識コーナー5 P.17
■ かぎやで風節 P.8	● 辺野喜節	
■ 沖縄戦終結50周年記念の琉歌碑 P.9	● 當山正堅先生の琉歌碑	
■ 豆知識コーナー3 P.10	● 安波節	
● 沖縄戦終結50周年記と祖国復帰50周年		■ 調査者紹介・あとがき P.18

国頭村の歌碑 案内図



①恋し鏡地

作詞 儀保正光軍

現代語訳

奥間の森の伊集の木
に花が咲くと「あれから
何年経ったのかな」と
花を見れば、その時の
思い出が湧くおめは
つる来る。

あぶしはれーの行幸(鏡
地の浜)の時にあぶきは
ゆきとくしたけど私は
意気にならなかつた。
誰にも言えないせいで長特
多もなんどか淋しくなつて
鏡地の浜辺に一人座つた。

あぶはかこのことを離れたのは
たしか霜月(11月)の月夜の晩
田んぼのあせ道を通つて比
地橋まで来て別れた。
その時の後姿は今も忘れな

このうち会えるのではと、
知つていそが様に消息(今頃
どこで何をしているか)を尋ねた
りした。今度来る時は
思い出のおの橋(比地橋)を渡り
戻つておいてよ鏡地に。

戻て、来うよう
鏡地に
今日ん友小に沙汰さしが

奥間森め伊集め木や 花ん咲ちよう霧かみてい
ありから幾年なとがや 見れば想いやまさてい
戻て、来うよう 鏡地に
あぶしはれーめあぬ時に 袖にしちみるあぬ情
ぬんで他人に知らすかま 夕んぬびせら淋しさぬ
鏡地浜に座ちようたししか
たしかありや霜月め 月め夜ぬあぶし路
比地川れうて、別りたる 後姿め忘れらん
戻て、来うよう 鏡地に



鏡地に創設70周年記念
1998
2068-1072022



②こいし国頭

読み人知らず

山水ん清らさ
至情人深さ
こいし国頭に
幾世までん



読み

やまみじん ちやうさ
しなさん ぶがさ
くいしくんじんに
いくゆまでん

意味

山の水も清うがで
住む人も自然で深
い優しさがある。
こんな居心地の良い
国頭にいつまでも
暮らしたい

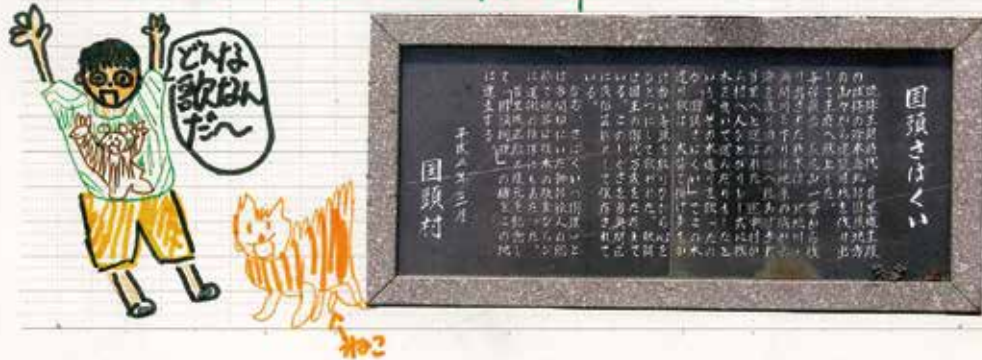


★ 明治時代に伊地の山に銅を掘り
出す鉱山扶として働きに来てい
た人たちが詠んだ歌と伝えられている

③ 国頭さばくいの地



★ 碑が建っている奥間集落が、沖縄各地で地域の芸能として踊られ、歌われている「国頭さばくい」の発祥の地であるということをも、記念して建てられた碑



豆知識コーナー 1

なるほど大研究

「恋し国頭」の碑

① 昭和33年にオクマビーク入口交差点の角に建てられたが、平成10年ゆいゆい国頭頂のオープンに合わせてゆいゆいのメロに引起してきました。

② この歌は伊地の鉦山とも関係が深い伊地の集落内の下田橋のらんかんにもこの歌と鉦山抹の彫刻がある



5/24更新は伊地の公民館



男の人が金目とほり出しの作業の様子

「国頭さばくい」

記念碑には歌は書かれていませんでした。代表的な濁り待です。

サ-首里天(やなしめ) ヨイ-ヨイ-サ-御木林(だやびる) ハイ-エ-ハラ-ラ ヌイ-サ-トリカユイサカ

サ-長尾山(檜木や) ヨイ-ヨイ-サ-腰(め)前(腹)

サ-御万人(まじりや) ヨイ-ヨイ-サ-皆(あ)肝(揃)とて

※首里の王様に献とする木で、長尾山の檜の木は白くさすべしてとせり、はな木木です。村人揃って心を合わせて木を切り出します。



国頭さばくい



国頭さばくいとは、もともと国頭地方に伝承されている木やり歌。さばくい(捌理・捌吏)とは、琉球王朝時代の地方役人の役職名で、奥間には間切の番所(今の村役場)が置かれていた。大衆芸能として大人気を獲得し、東村、名護市(城)、今帰仁村、伊江村、那覇市、宮古下地町、八重山、遠く種子島の庄司浦まで伝播している。首里王城の造営、改築の時、与那覇岳中腹あたりから檜やイスの木を伐り出して、木やり歌や掛け声とともに川に沿って鏡地浜まで運び、ヤンバル船で那覇港へ、そして首里王府へと献納されていた。木材を谷底に落とししたり、木材の両方に幾組もの人々がかつぐ棒(ムカデ棒)を通しムカデのようにして運んだり、その方法は地形に合わせて様々である。ちなみに、奥間の演舞は、生活の反映である、人夫の召集から始まるところが他地域と決定的に違う。

首里城の火災

約30年にわたる復元工事が完了した2019年、悲しい出来事が起きた。「世界のウチナーンチュの日」があげた10月31日未明、大規模な火災が発生。2022年から本格的な再建工事に入ると発表されています。沖縄のシンボルの復元、伝統芸能への脚光を心から願います。



④かぎやで風節

読み
あたがふうぬちやししいまちゃんたん
かぎやでみぬちいひたごちちやん



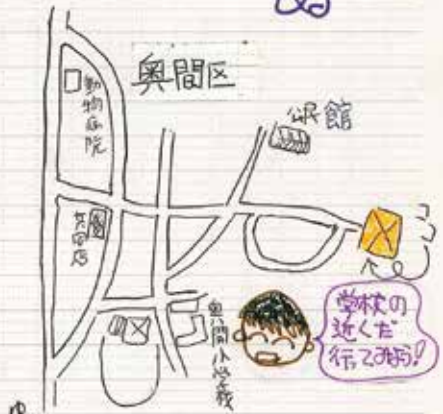
あた果報のつきやす。
夢やちやうも見だぬ
かぎやで風のつくり
べたとつきやん

説明文

第二尚武の始末門正(全火)は、不遇の苦いときに奥間の奥山にあるマンツキ原取にかくまわれて学芸になった奥間鎮治屋の御宇を汚れて、その後「470年に琉球王に就くと奥間鎮治屋の次男王冠を御鎮所に取り立てた。その時、王冠が甚だしい御座りであった。天宮を奉納し得られようとは夢にも見ない事であった。御座りしている物を得たが、そのおかげで御座りする御座りの御座りであった。』という意味の歌と「かぎやで風節(鎮治屋子孫)」の歌歌といわれ、今も伝えている。『かぎやで風節』は、国の歴史、王統、子孫、航海の安全、公事公務の進行、産寧等祝意を表すときに歌われる歌が多い。また國王の御宇や高貴の空で御座りながら第一組の御座りにあられることから「御前風」の異名もある。
2011年8月吉日
奥間鎮治屋子孫：安楽(座安家、奥間)
建立委和：宮里村、東郷地



敷土の奥に奥間鎮治屋
洗祥の地の石碑もある



場所
奥間区あか川がんじやーの
子孫 座安家の敷土内にある